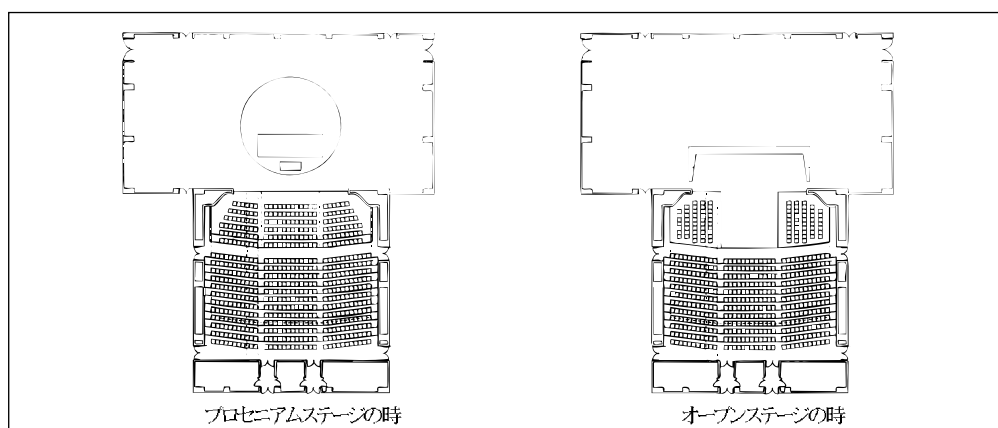




外観イメージパース



その6

開発建設部

国立組踊劇場(仮称) の建設について

整備計画策定の経緯

一七九九年琉球王府の踊奉行玉城朝薫により誕生した組踊は、一九七二年に国の重要無形文化財に指定されましたが、組踊をはじめとする沖縄の伝統芸能の正統な継承、伝承者養成、組織的な記録保存や調査研究等を実施する施設がないことから、沖縄県及び地元関係者から建設要望がなされました。

沖縄政策協議会において沖縄振興策のプロジェクトのひとつとして位置づけられ、文化庁において平成九年五月に「国立組踊劇場(仮称)」の在り方に関する調査研究協力者会議」が発足し、平成十年三月に劇場の運営、組織、事業、施設の在り方について基本的な構想・計画がとりまとめられました。これを基にして平成十年七月から基本設計を行い、このたび施設の基本計画の概要が取りまとめられました。

予算関係

国立組踊劇場(仮称)については、平成九年に浦添市小湾地区に建設する事が決定し、平成十年度の沖縄

施設の概要

開発庁一括計上予算、沖縄文化施設整備費)で基本設計費が認められました。予算は文化庁へ移管されたのち、建設省に支出委任され、業務を執行する当局が実施してきたところです。平成十二年度は実施設計費が予算化され、平成十二年三月までに実施設計を終える予定です。

国の重要無形文化財「組踊」を中心とする沖縄伝統芸能の保存振興を図るとともに、沖縄の地理的・歴史的な特性を活かし、伝統文化を通じたアジア・太平洋地域の交流の拠点となることを目的としています。施設規模は、地下二階・地上三階建延べ面積約二四、〇〇〇㎡、工事費約百億円を予定しており、建物のフロア構成は二階がメインホール、サブホールの公開関係、舞台・楽屋関係、二階が普及啓発関係、三階が養成研修・稽古場関係、調査研究関係等の諸室としています。

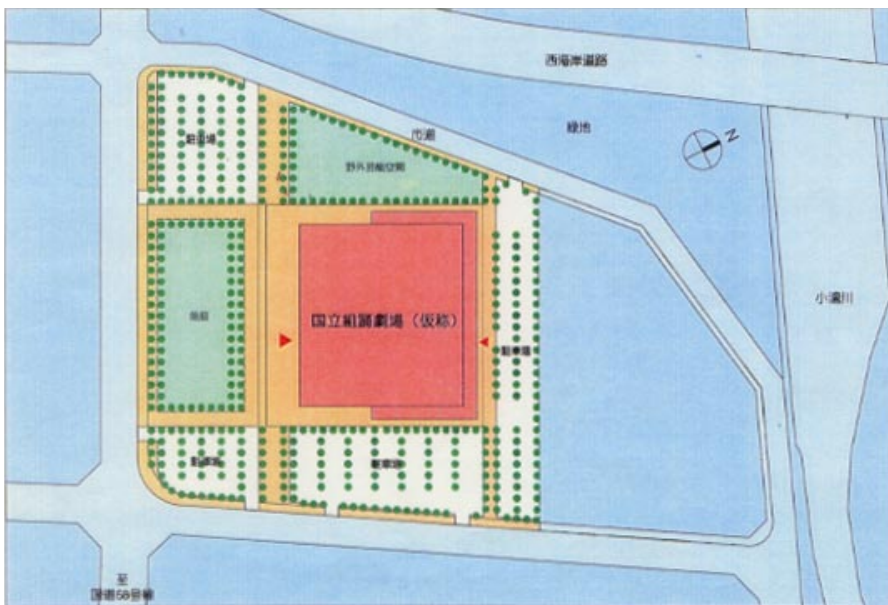


整備の年次計画

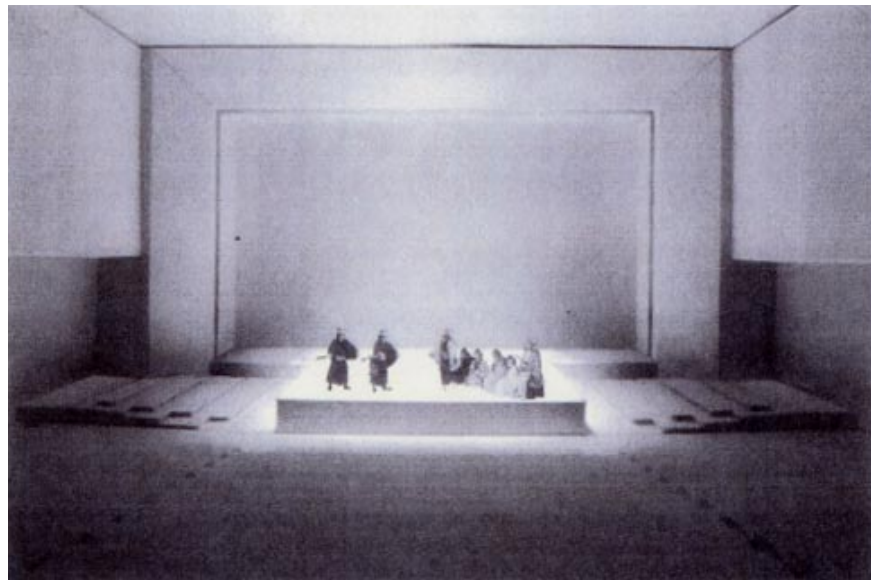
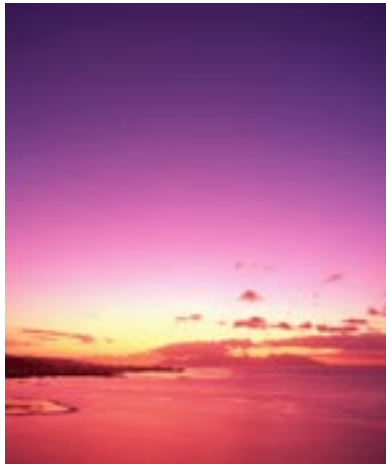
平成十年度は公営型プロポーザル方式で設計者を髙松伸建築設計事務所にて特定し、基本計画をまとめた。平成十二年度は引き続き実施設計を行い、順調にいけば平成十二年度に工事着手、十四年度完成の予定です。

平成十一年度の計画

平成十一年度に行った基本設計を多角的に検討し、文化庁が設置している、国立組踊劇場(仮称)設立準備調査会に諮りつつ実施設計を進めます。



配置ソーニング図



メインホール内観/マース(オープンステージ)

建物概要

建設場所: 沖縄県浦添市小湾(こわん)地区

敷地面積: 約27,000㎡(予定)

構造規模: 鉄骨鉄筋コンクリート(一部鉄筋コンクリート)造、

地下1階地上3階、延べ面積 約14,000㎡

舞台機構: メインホール(オープンステージ(注1)とプロセニウムステージ(注2)の両機能を備えた可変式舞台)

・プロセニウム舞台(間口8間、奥行10間)

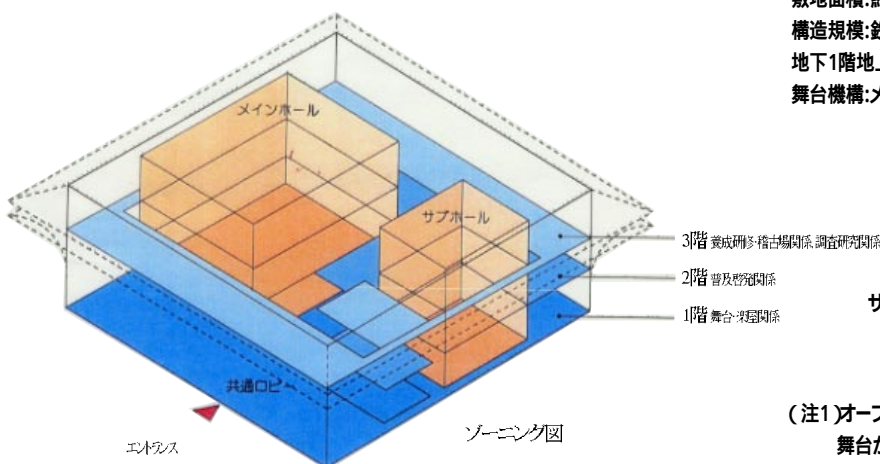
・組踊本舞台(4間四方の張り出し、昇降式)

・客席数(プロセニウムステージの時: 約650席)
(オープンステージの時: 約500席)

・回り舞台・迫り・大迫り・小迫り・花道・橋懸

サブホール(研修等多目的機能をもつホール)

・客席数(約200席)



ソーニング図

(注1) オープンステージ

舞台が客席の中に張り出した形式で、緞帳などの幕を使用しない。

(注2) プロセニウムステージ

今日の劇場・ホールで一般的に見られる、舞台と客席との間に額縁状の枠を持った形式で、緞帳などの幕を用いる。